

いまの歴史

新聞をななめ読み、週刊誌を読み飛ばし、倍速モードでニュースを見れば、よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

【政治】

知事VS議会VS官僚の対立必至 がんばれ！ふたりの庶民派新知事

東京・大阪の両知事にそれぞれ青島幸男、横山ノックが就任したのは、ご存知の通り。この知事選は、二人のテレビタレントとしての功績が皮肉られ、「お笑い選挙」などともいわれたが、実質的には「無党派vs談合」という形の選挙戦であった。その結果は、今までの既成政党が密室の中で中央官僚を担ぎ出すという悪政方式を打ち破り、庶民が望んでいた賢い身近な人物が当選し、政界再編を願う都・府民、さらに国民の期待どおりとなったのである。

しかし、これからは二人にとっても庶民にとっても本場の試練のはじまり。青島氏の対立候補であった石原氏が街頭演説で「議会の合意がなければ何も実現できない。したがって、政党を無視するような人間には都の問題は解決できない」といったように、両都府議会には既成政党議員が庶民的政治に反対攻勢を行うことは間違いないからだ。けれども「オール与党相手に一人で戦うのは大変だが、絶対「迎合しない」という二人の政界再編の意地が、きつと自治体レベルから国政へ光明を走らすはず。ガンバレ！ノック、青島。

ノックは「無用」で、青島は「シャボン玉」だけど、選挙民の大きな期待をどうぞお忘れなくてがんばってください。



【ガン】

史上何度目かのガンワクチンの話 今度こそ本当のホントウ!?

いつの間にか日本も、アメリカに負けず劣らずの物騒な世の中になってしまった。だから、カタカナで「ガン」と書いただけでは「銃」の話題なのか「癌」なのかわからなくなってきた。これは「癌」のお話。

ご存知のように癌は、現在もこれといった特効薬のない不治の病だが、最近になって、やっと本格的ワクチンが発見されたというのだ。このワクチンは、癌細胞に滅法強いT細胞（キリンパ球）で治療させるといふもので、今まではない形のワクチンらしい。

しかし、問題はこのT細胞の動きがいまいちトク、肝心の癌細胞を見逃してしまったりするのである。だから現時点では実用化できないが、これからの臨床試験でT細胞の動きを活性化することさえできれば、本当の特効薬として登場する可能性が高いというのだ。

副作用もなく、手術の必要性も少ないこのワクチンが使えるようになれば、「ああ、大腸ガンだね。じゃ、このワクチンを飲んで」で治る話も夢じゃない。つまり、このT細胞さえガンばれば、癌は不治の病からさいほうなら...

【経済】

あのウルトラ激安スーツ 最近トンと頭打ちのワケ

この長期的不景気の中で、救世主のごとく巷にあらわれた現象が「価格破壊」。当初、消費者はこれほど有り難い経済風潮はないと感じていたのだが、最近になって、どうもその雲行きが怪しくなってきたのである。

その例のひとつが、あの紳士服に価格破壊をもたらした「洋服の青山」の業績不振。年に数十店舗規模で新しい店をオープンする積極的展開は相変わらず。

だが、昨年度の売上は全体で13%減。しかも株価がこの2年間で5分の1に暴落しているというのだ。

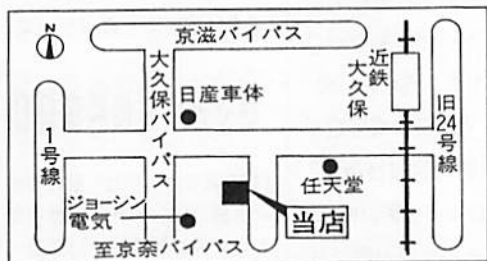
1着1980円の激安スーツを目玉に都心へも進出した、あの飛ぶ鳥を落とす勢いが、最近バッテリーなのである。

この直接的理由は、消費者が「安さ」に釣られて1着は買ったけど、2着目はもつた」というものらしい。つまり「オシャレなデザインじゃないのもういい」というのである。

確かに商品は安ければ安いほど、消費者には有り難い。が、肝心の中身が悪ければ、賢い消費者はすぐに飽きてしまふのだ。「価格破壊」は安さが魅力だが、やっぱり商品の良さも必要。



お買得セットあり♡



〒611 京都府宇治市大久保町旦椋130-10 安田ビル3F
TEL.0774-44-3115

【マスコミ】

独自調査をサボるマスコミに ラモス痛烈なボレーシユート



あのオヤジが指を振り回しながらムチヤさえ言わなければ……ね、カリオカ。

近頃は情報化社会といわれるだけあって、様々な媒体のマスコミが氾濫している。本来これは、いろいろな角度から事の真実を知ることができるというメリットがあるのだが、最近の報道形態を見る限り、果たしてこの利点が活かされているのか疑問に思う。たとえば、いま巷を騒がしているオウム真理教についての報道。全てが全て世論の噂や警察の見解を中心にした内容で、マスコミ独自の取材報道がなされていないのだ。これでは、たとえオウム真理教が真犯人であったとしても、松本サリン事件の報道姿勢と全く同じ。長野県警と世論がK氏をほぼ犯人と勝手に断定した。間違った一方的報道姿勢となら変わらないのである。

つまり、最近のマスコミは商業主義から権力や世論が優先され、双方向からの事実の検証が、いい加減なのだ。

こんな今どきのマスコミを皮肉ったのが、ヴェルディ川崎のラモス選手の一語。「お前らうちのチームが強ければ強い面白くない、また弱ければ弱いで、結局面白くないって書くんだよ。ほんと、お前ら勝手だよ」

【現象】

どこまで突き進む素人ヌード DX東寺の素人ストリッププロレス

最近の素人娘は報酬さえ貰えれば、どんな壁でも平気で越えてしまつてから恐ろしい。美人女優からはじまったヘアヌード現象にしても、今は素人が当たり前。たいいての子は「いまの綺麗な体を後世に残りたい」なんてお決まりの建て前を言いながら、目の前に並べられたたつた万札の数次第で、簡単に裸になってしまつたらしいのだ。

業界人からこんな話を聞いて「大和ナデシコの精神はどこへいった」などと思つていたら、地元・京都ではもっとスゴイ現象が起こつていたのである。それは素人娘のストリッププロレスショー。ストリップ劇場の老舗DX東寺で行われているものだ。たいていこういった内容のショーは、タイトルだけで女性のストリップが行っているのだが、このショーは真正正路の素人。「水着モデル募集」という広告を出し、連絡が来た素人を「顔は出さないし、おじさんの相手はしなくていいから」と口説くと、なんと2割の確率でショーの出演をOKするというのである。

日本文化を最も残す京都でこれだから、もう大和ナデシコは死語なのかも。

【流行】

昔だとちよつと意味が違ったが 真正正路の「オカ釣り」ゲーム

ただ、釣った魚が買えないのが難点。……というのはオヤジの反応なのかしら。



いまゲーセンで一番人気のソフトといえば、コンピュータグラフィックの3Dを駆使した、現実さながらの格闘対戦が楽しめるバーチャルファイター(格闘ゲーム)。各地で段位認定や全国大会が開かれているほか、このゲームのやり過ぎで「バーチャ貧乏」なる新語が生まれたほどの電脳トレンドだ。

これに対して、最近隠れた人気を誇っているのが、フィッシングゲーム。数年前からスポーツフィッシングという名で釣りは密かなブームになっているが、ついにゲームの世界まで進出してきたのである。考えてみれば釣りは、場所、季節、時間帯、道具、仕掛けといった選択が多いシミュレーション性の高いスポーツなので、コンピュータゲームが日々高速・高性能化されている現状からして、のんびり・じっくりゲームを楽しみたいというゲーマーたちの常に頭を片隅にある欲望までくすぐっているのだ。

だから、釣りファンならずとも、シミュレーションが好きなゲーマーに支持されるのも当然なのかもしれない。